

SIH 道場におけるラーニングスキル取得傾向について —学生アンケートにもとづく縦断的調査研究—

上田 勇仁 吉田 博 川野 卓二

徳島大学総合教育センター教育改革推進部門

1. 背景・目的

徳島大学では、2014年に文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）テーマI「アクティブ・ラーニング」に採択され、2015年から全学部・学科必修1単位科目として「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～（以下SIH道場）」を開講している。SIH道場は1年次前期に開講され、学部学科ごとに15の教育プログラムを実施している。各プログラムにおいて、i 専門分野の早期体験、ii ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、iii 学修の振り返り、これら3つの設計項目が必須で求められている。高校から大学に入学した全ての1年次の学生にこうしたスキルを習得する機会を設けることで、大学生に求められるスキル・態度の育成に寄与する（川野・久保田 2015）。

本研究では、SIH道場の各教育プログラム終了後に実施された学生アンケートに着目して、2015年から2017年までの3年間の学生アンケートの結果から学習に関する回答を抽出して、教育プログラムごとの学生の回答結果について検証を行う。検証の結果からSIH道場全体の特徴、教育プログラムごとの特徴を把握し、SIH道場の成果・改善に繋げることを目的としている。

2. SIH道場概要

SIH道場では、各教育プログラムにはSIH道場授業設計コーディネーターを任命し、授業を担当する教員と協力しながら、教育プログラムごとに設計された授業を展開する。また、SIH道場に関連した授業設計、FD、個別相談、学生・教員アンケートについては筆者らが所属する教育改革推進部門が支援を行っている。

3. 調査方法

学生アンケートはSIH道場のプログラムに対する満足度や改善点等について回答し、年度ごとの評価・改善として活用している。本調査ではその中から「1.体験学習で専門分野に対する興味関心が高まった。」「2.レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した。」「3.プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した。」「4.1つの課題に対して、他者と協力して取組際の留意点を理解した。」「5.学修（体験）を振り返ることの重要性を理解した。」この必須設計項目と関連する5項目（4件法）を対象に検証を進める。

2017年に実施した15の教育プログラムを表1に記した。①-⑫の教育プログラムについては、2015年から2017年を対象にアンケートを抽出した。また、対象となるデータの信頼性を高めるために、①総合科学部の2015年のデータについては現在の応用理数コースに該当する総合理数学科の回答者は対象外とした。⑬-⑮の教育プログラムについては、学部・学科の改組や新学部設置のため2016年から2017年のデータを対象にする。

データはSIH道場の事業実施報告書（徳島大学2016）（徳島大学2017）の事業報告書に記載されているものを対象にし、2017年のデータについては2017年10月時点で集計されているものを対象にした。

4. 調査結果

対象となる質問ごとに、複数年度の回答結果を集計し、回答の平均と標準偏差示した（表1）。また、教育プログラムごとに5つの質問のうち最も平均点が高い値を太字・下線で記した。

表1 SIH 道場必須設計項目に関連した学生アンケートの結果(複数年度の集計)

教育プログラム	1.専門関心			2.レポートの書き方			3.プレゼン			4.他者との協力			5.振り返り		
	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD
① 総合科学	427	3.04	0.74	421	3.36	0.58	293	3.11	0.71	301	3.11	0.75	422	3.15	0.65
② 医学科	286	3.41	0.69	286	3.23	0.68	286	3.37	0.64	286	3.56	0.55	286	3.32	0.66
③ 医科栄養	140	3.46	0.68	140	2.81	0.68	140	3.10	0.60	140	3.49	0.59	140	3.31	0.62
④ 看護	172	3.35	0.58	172	3.30	0.56	172	3.33	0.53	172	3.55	0.54	172	3.45	0.59
⑤ 放射	40	3.50	0.64	40	3.33	0.57	40	3.23	0.62	40	3.60	0.55	40	3.30	0.56
⑥ 検査	101	3.38	0.63	101	3.17	0.65	101	3.25	0.59	101	3.40	0.58	101	3.25	0.61
⑦ 歯学	137	3.41	0.66	137	3.26	0.67	137	3.29	0.65	137	3.45	0.64	137	3.28	0.72
⑧ 薬学	245	3.38	0.62	245	2.88	0.73	245	3.19	0.66	245	3.49	0.59	245	3.20	0.65
⑨ 社会基盤	264	3.34	0.69	264	3.26	0.68	262	3.19	0.75	264	3.34	0.74	263	3.30	0.76
⑩ 機械科学	323	2.96	0.85	321	3.26	0.64	322	2.83	0.77	322	3.14	0.70	321	3.02	0.78
⑪ 応用科学	254	3.36	0.71	252	3.14	0.69	252	3.09	0.77	252	3.45	0.65	252	3.40	0.67
⑫ 電気電子	303	3.00	0.74	301	3.25	0.63	303	3.28	0.64	303	3.32	0.68	303	3.20	0.76
⑬ 情報光	271	3.03	0.84	271	3.10	0.73	271	3.18	0.67	271	3.24	0.68	271	2.99	0.77
⑭ 応用理数	128	3.53	0.66	128	3.23	0.69	127	3.31	0.71	128	3.45	0.66	128	3.47	0.60
⑮ 生物資源	191	3.38	0.61	190	2.87	0.70	191	3.02	0.66	191	3.29	0.62	191	3.38	0.61
総 計	3282	3.24	0.74	3269	3.18	0.68	3142	3.17	0.70	3153	3.36	0.67	3272	3.24	0.70

5. 考察

多くの教育プログラムで高い平均点だったのは「4. 他者との協力」であった。新入生にとって、SIH 道場のなかで実施されたグループワークが、他の必須設計項目に比べ印象に残っていると推測される。①総合科学部においては、「2. レポート書き方」の書き方が、他の必須設計項目よりも高い値を記している。他の教育プログラムにおいてもレポートの書き方に関する、授業内容を設けているが、①総合科学部だけにこうした特徴が見られるということは、学生にとって他の必須設計項目よりも印象に残るレポートに関する学習課題や教員からの指導があると推測される。

また、「3. プレゼン」に関する項目については、高い値を示している教育プログラムがなかった。プレゼンテーションについてはどの教育プログラムについても授業内容に取り入れ、全ての学生がプレゼンテーションに関する講義やビデオ教材を受講しているが、授業時間の関係で、一部の学生だけがグループを代表してプレゼンテーシ

ョンを実施している可能性がある。SIH 道場は1単位必須の教育プログラムであるため、すべての必須設計項目について、全ての学生が同程度の学習課題を経験するためには、なんらかの工夫が必要になると考えられる。

参考文献

- 1)川野卓二・久保田祐歌 (2015) . 「徳島大学の教学マネジメントと AP 採択事業『SIH 道場』による全学へのアクティブ・ラーニング展開の試み」『大学教育と情報』2015 年 (3), 19-21.
- 2)徳島大学 (2016)「平成 27 年度徳島大学大学教育生加速プログラム事業実施報告書」
<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html>(閲覧日 2017 年 10 月 31 日)
- 3)徳島大学 (2017)「平成 28 年度徳島大学大学教育生加速プログラム事業実施報告書」
<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html>(閲覧日 2017 年 10 月 31 日)